



☆第1回宮崎県生涯学習実践研究交流会☆

1月21日、宮崎市で、第1回宮崎県生涯学習実践研究交流会が行われました。開会行事の後、元福岡教育大学教授で月刊生涯学習通信「風の便り」編集長の三浦清一郎氏が『未来の必要～人間は自然、教育は手入れ～手入れなくして生きる力はありません』と題して記念講演をしました。2013年のデータでは、我が国の平均寿命と健康寿命の差が男性9.02歳、女性12.4歳であるという話がありました。これは、平均で我が国の男性は人生の終わり約9年間を、女性は約12年間を自分の力では身の周りのことも、移動もできず、介護の世話になって過ごしていることを意味しています。これを防ぐには、心にも身体にも適度な負荷を掛けることが重要であり、昔から日本で言われている「隠居」という考え方は間違っているとのことでした。

子どもに「身体を鍛えて勉強せよ」と言うが、それは高齢者にも必要で、ボケ防止には「読み、書き、体操、ボランティア」がよいそうです。三浦氏はこの「ボランティア」として放課後子ども教育支援を挙げておられましたが、「我が延岡には、はげまし隊があるじゃないか！」と声をあげたかった！はげまし隊は、こども達の学習支援を超えて、我が国の健康長寿推進や医療費の削減にも一役買っているのです。団塊の世代が皆寝たきりになったら、国の財政は破綻するそうです。そうならないためにも、はげまし隊活動を一層充実させていきたいものです。



同日、午後は分科会で桑畑事務局長が「学習支援を核とする学校との協働」と題してはげまし隊活動の実践発表をし、30名ほどが話に聴き入っていました。発表後の質疑の中で、延岡の管轄ではない地区の話ではありますが、原則を守らず教師の役目をしてしまう隊員さんとそれにまつわる問題点の話が出ました。学校に常駐するコーディネーターの役割や隊員研修の重要性を再認識しました。

☆西階中訪問☆

1月19日、学習院女子大学の品川明教授がはげまし隊活動を見学するため、西階中学校を訪問しました。延岡市では毎年リアルサイエンス(NPO法人体験型科学教育研究所)の研修やワークショップが行われています。今回、リアルサイエンスが活動を終了し、この品川先生が奥山勇太郎塾長と共に「学びの創造塾」として科学教育を担う教師の資質向上と、科学教育の啓蒙事業を引き継ぐことになったことから、今回の延岡訪問となりました。品川先生は西階中の生徒達のチャイム黙想や無言清掃、さらには、はげまし隊と共に積極的に学ぶ姿勢にとても感心していらっしやいました。

